

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果・分析について

令和8年9月 下呂市教育委員会

令和8年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。この調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育活動に役立てていくことです。

下呂市教育委員会では、調査結果から、下呂市の子どもたちのよさや課題を明確にし、子どもたちに確かな学力を育むことを目指します。

なお、この調査により測定できるのは、学力のうち、特定の一部分であること、学校における教育活動の側面であることなどをご理解ください。

1 教科に関する調査（教科、領域別）

【小学校】6年生

教科	全体の傾向	傾向の詳細
国語	全国平均正答率を上回っています。特に、「思考力・判断力・表現力等」に関わる問題の正答率が高く、身につけた「知識及び技能」を生かし、筋道を立てて自分の考えを表現する力が高いと言えます。	言葉の特徴や使い方について、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができます。また、「話すこと・聞くこと」の領域において、自分の考えが相手に伝わるよう、資料を活用したり理由や事例を挙げたりしながら、表現することができます。
算数	全国平均正答率を上回っています。特に「知識及び技能」を問う問題における正答率が高く、算数の多くの領域における基本的な知識や技能等が身につけていることが窺えます。	「図形」の領域で特に正答率が高く、立体を構成する面についての理解や、体積の意味や求め方についてよく理解しています。今後は、「変化と関係」の領域について、基準量、比較量、割合の関係を正しく理解し、活用できる力を高められるとよいです。

【中学校】3年生

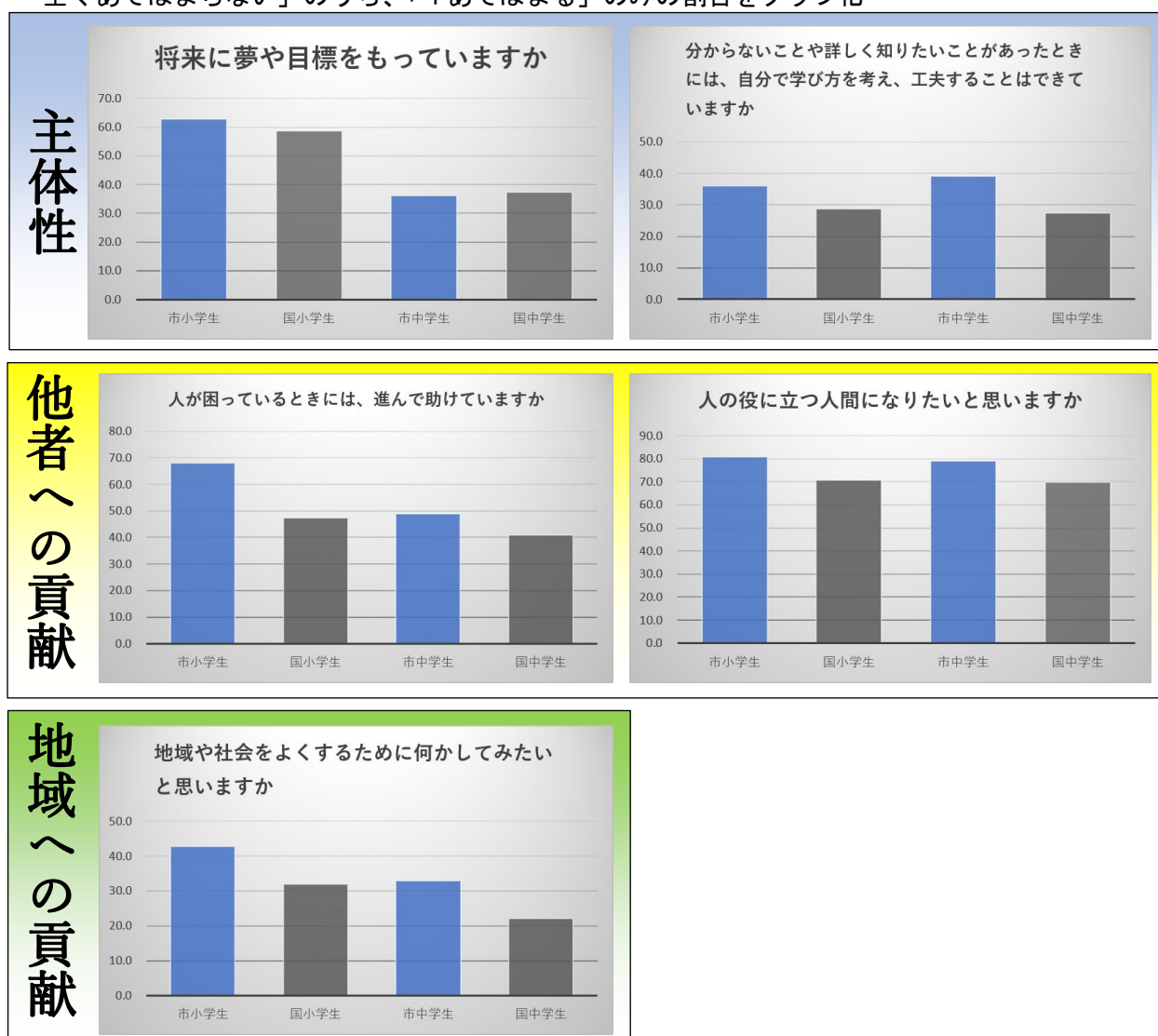
教科	全体の傾向	傾向の詳細
国語	全国平均正答率を大きく上回っています。「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」ともに定着度が高く、それらを活用して、記述式の問題にもきちんと対応できる力が備わっていることが窺えます。	「書くこと」の領域において、相手に気持ちがより伝わるよう、表現の効果を考えて書くことができるなど、昨年度と比べ伸びがあります。今後は、語句の意味を調べるために ICT 機器だけに頼るのではなく、国語辞典を活用することなども大切にできるとよいです。
数学	全国平均正答率と同水準の正答率となっています。各学習領域において、基本的な学習内容がほぼ定着しています。特に知識として身につける必要がある事柄について、その定着度が高いと言えます。	「データの活用」の領域では、確かな知識をもとに、資料の傾向を正しく捉えることができます。今後は、確かな知識や技能をもとに、筋道を立てて考えを組み立て、数学的に説明することを大切にし、その良さをより実感できるようにするとよいです。
英語	異なる問題から構成される検査の結果を、同じものさし（尺度）で比較した IRT スコアの平均値が全国の平均値より高く、「聞くこと」や「読むこと」について、その定着度の高さが窺えます。	日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、短い文章を読んで概要を捉えたりする能力が大変高いです。今後は、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書いて表現する力を高めていけるとよいです。

2 教科に関する調査（問題別）

成果のみられた問題の共通点	課題のみられた問題の共通点
・ 小学校・中学校ともに無回答率が低く、誰もが問題に粘り強く取り組もうとしていることが窺えます。 ・ 国語、算数（数学）、英語ともに、「知識及び技能」を問う問題の正答率が高く、学習の基礎となる力が定着していることが窺えます。	・ 中学校の数学では、自分の考えを表現したり、分かりやすく相手に伝えたりする力にやや弱さが見られます。 ・ 基礎的な学習内容を活用して、日常の中にある問題を解決することや、応用的な問題に取り組むことに、伸びしろがあります。

3 質問紙からみる下呂市の小中学生の傾向

※質問紙の選択肢「1 あてはまる」「2 どちらかといえば、あてはまる」「3 あてはまらない」「4 全くあてはまらない」のうち、「1 あてはまる」のみの割合をグラフ化



上記の結果から、下呂市の小中学生は、「分からないことを分かるようにしたい。」「人の役に立ちたい。」「地域や社会のためにできることをやりたい。」という前向きな願いをもって、前向きに日々の学校生活を送ろうとしていることが分かります。

下呂市では、今後も学校、家庭、地域が連携し、子どもたちがふるさとの風を感じ、将来の夢や目標をもってたくましく生き抜いていけるような教育をサポートしていきます。